

保護者の皆様

札幌市立札幌小学校  
校長 神谷 かほる

## 全国学力・学習状況調査の結果について

4月に全国の小学6年生を対象に学力・学習状況調査が実施されました。本校の結果につきまして、下記のとおり全国平均と比較した分析結果がまとまりました。結果は6年生一学年のものではありますが、調査までの5年間の指導の結果であり、札幌小学校の児童の傾向を表す一要素と考えこのたび全家庭にお知らせすることといたします。なお、この調査で測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面であることを十分に御理解の上御参照ください。

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p><b>国語</b> <u>主として「知識」に関する問題(A)</u> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」 《ほぼ同程度であるが、やや上回っている。》</p> <p>「書くこと」 《上回っている。》</p> <p>「読むこと」 《下回っている。》</p> <p>「言語文化と国語の特質」 《ほぼ同程度であるが、やや下回っている。》</p> <p><u>主として「活用」に関する問題(B)</u> 「話すこと・聞くこと」 《下回っている。》</p> <p>「書くこと」 《下回っている。》</p> <p>「読むこと」 《下回っている。》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら、筋道を立てて話すこと。</li> <li>▶ 文章全体の構成の効果を考えることができる。</li> <li>▶ 目的に応じて必要な情報を捉えること。</li> <li>▶ 主語述語の関係に注意して文を正しく書くこと。漢字を文中で正しく使うこと。</li> <li>▶ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見をまとめること。</li> <li>▶ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くこと。</li> <li>▶ 文章の内容を的確におさえ、自分の考えを明確にしながらかくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 言葉の置き換えや、内容や順序を考えるなど、相手や目的に応じた説明の仕方を工夫する、実際の説明場面を設けた学習場面の設定。</li> <li>▶ 構成の理解を、実際に文章を書くときの構成の工夫に結び付ける。</li> <li>▶ 目的に応じて必要な文を捉えて読むことができるようにするため、何のために、何について調べるのか具体的である学習活動を設定。</li> <li>▶ 文章を書く、読むときに主語述語の関係を強く意識させる。同じ音をもつ漢字を文脈の中で使い分けられるようにする。</li> <li>▶ 話し合い活動の場を多く経験させ、相手の意見を踏まえて自分の考えをまとめる場を設定する。</li> <li>▶ 必要な資料を集め、得た情報からキーワードを見付けたり、関係付けたりしてから、自分の文章を組み立てていく学習活動の充実。</li> <li>▶ 何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかという目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読んだり、自分の経験と関係付けながら読んだりする指導の充実。</li> </ul>

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

算数

主として「知識」に関する問題(A)

「数と計算」

《上回っている。》

「量と測定」

《ほぼ同程度であるが、やや下回っている。》

「図形」

《上回っている。》

「数量関係」

《ほぼ同程度であるが、やや上回っている。》

主として「活用」に関する問題(B)

「数と計算」

《ほぼ同程度であるが、やや上回っている。》

「量と測定」

《上回っている。》

「図形」

《ほぼ同程度であるが、やや上回っている。》

「数量関係」

《上回っている。》

▶数の意味や表し方について理解している。問題の場面から式を考えることが課題。

▶直接180度より大きい角の大きさを求めること。単位量あたりの大きさを求める式の意味の理解。

▶空間の中にあるものの位置を表現することが課題。

▶折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができている。

▶数量の関係から規則性を見出し、条件に合う事柄を判断できている。

▶結果を表に整理し、条件に合う時間を判断することができている。

▶条件に合う図形を見出すことができている。図形の構成要素や性質を基に、言葉や式を用いて記述することが課題。

▶2種類のグラフから読み取れることを関連付けて、適切に判断することができている。  
ほかの場面でも成り立つことを確かめて、考察したことを式を用いて表現することが課題。

▶問題場면을図や数直線に表し、数量の関係を的確に捉えて立式できるようにする指導の充実。

▶1直角の大きさを基に角の大きさの見当をつけることを測定に生かす指導、問題場면을図や数直線に表して基準量と比較量を正しく捉える指導の充実。

▶図と関連付けながら、空間の中にあるものの位置を、横・縦・高さの3つの要素で表す学習場面の設定。

▶グラフの「部分の変化」の特徴だけでなく、「全体の変化」の特徴に着目して考察できるようにする指導の充実。

▶日常生活の問題解決のために、試行した結果を表に整理し、それを基に事柄を判断する態度を育てる。

▶判断の理由を説明できるように、情報を表に整理して、自分の考えを学級や友達に分かりやすく伝えようとする学習場面を設定する。

▶図形の構成要素について説明し合う学習活動を行い、筋道立てた考えを表現する力を養う。

▶目的やデータの種類に応じてグラフを新たに作ったり、複数のグラフを関連付けて考察する学習活動の充実。  
考察したことを、図や式や言葉で表現する学習活動の充実。特に分配法則の活用の充実。

## 本校の概要

## 今回の調査における課題

## 改善の方向

### 理科

#### 「物質」

《下回っている。》

#### 「エネルギー」

《ほぼ同程度であるが、やや上回っている。》

#### 「生命」

《下回っている。》

#### 「地球」

《下回っている。》

▶物質を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを適用すること。実験結果から言える内容を記述すること。

▶電流の流れ方の実験で、予想に基づいて結果に見通しをもったり、結果から判断したりすることができている。乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを、実際の回路に適用することが課題。

▶安全に留意して野鳥のひなを観察する方法を考えること。人の腕が曲がる仕組を模型に適用すること。

▶堆積作用についての用語の理解。実験結果を基に考察し、その内容を記述すること。

▶水に溶けた物質は視覚で捉えることができないため、水溶液の重さや体積をはかり、定量的に考えることができるようにする。実験結果を基に分析し、まとめができるように、自分の考えを表現する学習活動を充実させる。

▶ものづくりを行う際には、必要に応じて目的に合うように改善するため、どのように修正するか友達と話し合う学習活動を設定する。

▶生物に直接関わる実際の観察場面を設定する。学習で得た知識を日常生活と関係付けて説明させる学習場面を設定する。

▶観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示して説明できるような学習活動を充実させる。実際の自然現象に適用して説明させる学習場面を設定する。

## 児童質問紙

指導の充実や学習状況の改善を図るため、教科に関する調査（算数・理科）と併せて、質問紙調査（学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等）も行いました。62設問のうち、特徴的な傾向がうかがわれる調査結果をご参照ください。結果から明らかになった課題に対し、さっそく改善を加えていくところです。

学校での改善策が、さらに効果的になるよう御家庭での協力や連携をお願いいたします。

	質問内容	本校の割合 %	全国の割合 %
1	家で自分で計画を立てて勉強していますか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	42.9 (82.9)	30.7 (67.6)
2	家で学校の授業の予習復習をしていますか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	17.1 (48.5)	27.7 (62.6)
3	算数の勉強は好きですか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	45.7 (82.8)	33.9 (64.0)
4	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	48.6 (80.0)	39.7 (78.4)
5	理科の勉強は好きですか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	57.1 (85.7)	52.6 (83.5)
6	自然の中で遊んだことや、自然観察をしたことがありますか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	54.3 (82.9)	66.6 (87.0)
7	自分には、よいところがありますか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	40.0 (80.0)	41.2 (84.0)
8	将来の夢や目標をもっていますか。 (どちらかと言えば、当てはまるを含める)	62.9 (94.3)	68.2 (85.1)

**課題**・・・質問紙の結果から、本校の児童は、算数や理科の学習を好きと感じて学習に取り組んでいることが分かります。本校の児童は、理科のテスト結果が全国を下回っており、興味はもっているが自然に関わる体験が少ないことが要因としてあげられます。家庭学習には計画的に取り組んでいる一方で、その内容に進んで予習復習を取り入れる意識は弱いようです。本校では、子どもたちの自己肯定感の育成を目指して教育活動に取り組んでいますので、子どもたちの自己肯定感・自己有用感をさらに高めていくことが課題です。

**改善の方向**・・・家庭学習については、より取組の効果を上げられるよう、どのような内容に取り組んだらいいかを示していくようにします。今後も子どもたちが学ぶ意欲をもって学習に向かえるよう、また成就感・満足感のある経験を重ねられるよう、学習活動の工夫に取り組んでいきます。御家庭におきましても、引き続きお子さんとの対話の中で、お子さんへの共感的・肯定的なメッセージを伝え、お子さんの成長を支えていただけますよう、お願いいたします。